平成２２年度　学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校
学校長　　向　　宏

１　教育目標
（１）確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。
（２）モラルを重んじ、各自が責任感をもって人を思いやる心豊かな人間を育成する。
（３）健康や体力の増進に努め、逞しく活力ある人間を育成する。
（４）ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献できる人間を育成する。

２　中・長期的目標
（１）学校の現状
① 本県基幹産業を担う人材育成を目的とする能登地区唯一の工業科単独高校として、もの作りを中心とした専門教育を行い、就職希望者のほとんどは、専門を生かした仕事に就いている。今後の経済状況の変化に伴う就職戦線の激化が予想され、今まで以上に社会が必要としている人材の育成が必要となってくる。
② 資格取得を奨励し、高度な資格に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者も増加している。部活動も大変盛んであり、資格取得のための放課後や休業中の補習と部活動の両立が課題である。
③ 部活動を推進し、９５％を超える部加入率、８０％を超える運動部加入率を維持し、健全な心身の育成をはかり、成果を上げている。

（２）生徒に関する中・長期的目標
① 基礎・基本の徹底と確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
② 時代を展望し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
③ 健康や体力の増進に努め、人間性を育み、心身ともに健康で逞しい人づくりをする。
④ 産業社会の変化に対応できる社会人としての総合的な能力を高め、問題解決能力・創造力に富む人づくりをする。

（３）教職員、学校組織などの望ましいあり方
①教職員の意識改革を図り、一人ひとりが学校経営に参画する意識を持ち、全職員が協力して、学校運営に組織的に取り組む。
②自己評価や外部評価を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、指導力の向上や授業改善に努める。
③産業構造の変化や技術革新に対応できるよう産業界の動向を常に把握するとともに、本校に適した指導内容･教育課程･教育システムを模索し、地域に必要とされる「ものづくり教育」をめざす。
④工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校作りを推し進める。

３　今年度の重点目標
（１）公開授業や校内外の研修を通じて指導力・技術力のアップに努め、分かる授業を展開し、生徒の基礎学力の定着と学力向上をめざす。
（２）資格取得を奨励し高度な資格への挑戦意欲を高めるとともに、補習体制を確立し合格者の増加をめざす。
（３）部活動への加入を推奨し、人間性に富み心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。
（４）企業が求める人材の育成に努めると共に、早期からの求人開拓で求人数の増加を図り、進路講演会や綿密な個人面談・面接指導等の徹底により、希望の進路実現をめざす。
（５）様々な機会を捉え環境問題への理解を深めるとともに、全職員・生徒で省エネ活動に取り組み、環境保全への意識を高める。
（６）地域企業、近隣の小・中学校、地域住民との連携を深め、地域への奉仕活動やインターンシップ等を通じて、社会の一員としての意識を高める。

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1　公開授業や校内外の研修を通じて指導力・技術力のアップに努め、分かる授業を展開し、生徒の基礎学力の定着と学力向上をめざす。	①　研究授業の事前教科研修会や研究協議会、公開授業を充実させ、各教科と学科を核にした授業改善に取り組む。	教務課 各教科 全職員	教科研修会や研究協議会を実施しているが、取組を通した指導力・技術力の向上がまだはっきりとは現れてきていない。	【努力指標】 研究授業で得られた授業改善の取組を各教科と学科を中心に行い、指導力・技術力の向上を図った。	各教科と学科で授業改善についての取組を行った A　各学期に３回以上取り組んだ B　各学期に２回取り組んだ C　各学期に１回取り組んだ D　全く取り組む事ができなかった	C・D合わせて５０％以上の場合は、再検討	教職員対象に ７月、１２月アンケート調査
	②　授業における理解度・達成度の確認を行い、課題やレポート等をとおして基礎学力の向上を図るとともに学習習慣を身に付ける。	教務課 各教科 全職員	学習に対する姿勢や基礎学力において二極化する傾向が見られる。また、考査時以外の家庭学習時間が少ない生徒が多い。	【満足度指標】 家庭学習を含め、授業以外での学習に十分取り組むことができた。	課題・レポートなど授業外での学習活動について A　十分取り組むことができた B　十分とはいえないが取り組むことができた C　少しは取り組むことができた D　全く取り組むことができなかった	C・D合わせて５０％以上の場合は、再検討	生徒対象に ７月、１２月アンケート調査
	③　定期考査１週間前より、部活動での学習会や、個別面談・個別指導等を増加させ、学習意欲の向上を図る。	部顧問 生徒会	学習会等に取り組む部活動も増えてきたが、まだ定期考査に対する意識が低く学習時間不足の生徒も少なくない。	【努力指標】 各部で、学習会、個別面談、個別指導を行った。	部学習会や個別面談、個別指導等を行った部が A　９０％以上 B　８０％以上９０％未満 C　７０％以上８０％未満 D　７０％未満	C・Dの場合は、取組を再検討	各部対象に ７月・１２月に調査
	④　調べ学習や読書習慣を身に付けさせ、図書室の利用を促す。	図書課 全職員	昨年度の図書室の利用者数は年度末で延べ4,638人で、さらに利用率を高めていく必要がある。 （１学期末1,245人、 ２学期末3,231人）	【成果指標】 図書室を利用する生徒が増加した。	２学期末での図書室の延べ利用者数が A 3,400人以上　（１学期末1,400人以上） B 3,300人～3,399人　（１学期末1,300人～　） C 3,200人～3,299人　（１学期末1,200人～　） D 3,200人未満　（１学期末1,200人未満）	C・Dの場合は、取組を再検討	７月・１２月に調査
2　資格取得を奨励し高度な資格への挑戦意欲を高めるとともに、補習体制を確立し合格者の増加をめざす。	①　各科・コースで資格について課外補習等を充実させる。	工業科	十分な補習が実施できた場合は、高い合格率をあげることができたが、補習時間の確保に苦慮している。	【努力指標】 放課後や休日の補習を充実させる。	放課後や休日の補習について A　十分取り組むことができた B　十分とはいえないが取り組むことができた C　少しは取り組むことができた D　全く取り組むことができなかった	C・Dの場合は、取組を再検討	教職員対象に ７月・１２月に調査
	②　希望進路の実現に対する資格取得の説明機会を増やすとともに、課外補習を充実させ資格試験の合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格取得に対する生徒の認識が高まってきてはいるが、その合格者数は満足できる数ではない。 （昨年度の資格試験延べ合格者数は前期末558人、年度末951人）	【成果指標】 各自が必ず合格したい資格を定め、意欲的に資格取得に取り組み、資格試験合格者数が増加した。	年度末での資格試験延べ合格者数が学校全体で A　1,000人以上 B　800人以上1,000人未満 C　600人以上　800人未満 D　600人未満	C・Dの場合は、関係者会議を開き、問題点・具体策を検討	年度末の資格試験受験結果集計による
	③　高度な資格の内容紹介や受験指導を行うとともに、ジュニアマイスターの点数区分を明示し、多くの資格に挑戦する意識付けを行う。	工業科 関連教科	昨年度のジュニアマイスター認定者は２８人と過去９年間で最高だったが、さらに向上させるためには取得が難しい資格に挑戦する生徒や、学科・コースにとらわれない資格を受験する生徒を増加させることが課題である。	【成果指標】 専門的な知識・技術を十分につけたことの総合指標となるジュニアマイスター顕彰の認定者数が増加する。	全校のジュニアマイスター認定者数が A　３０人以上 B　２５人～２９人 C　２０人～２４人 D　１９人以下	C・Dの場合は、取組を再検討	７月、２月の資格試験受験結果集計による

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3　部活動への加入を推奨し、人間性に富み心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	①　生徒全員が体力アップの重要性を認識し、個人、クラス、部活動で目標を持って体力向上に努める。	生徒会課 部顧問 体育科	教科体育や各運動部で体力アップを目指しているが、学校全体として取り組むことにより更に意欲と記録の向上を図る必要がある。（昨年度のアップ率は７３％）	【成果指標】 生徒の体力が年度初めより徐々にアップする。	体力アップを達成する生徒が A　７０％以上 B　６０％以上７０％未満 C　５０％以上６０％未満 D　５０％未満	C・Dの場合は、取組を再検討	生徒対象に ４月・１２月に調査
	②　本校の運動部は、能登地区のリーダー的存在であることを自覚させ、各部において県高校総体・新人大会でベスト８以上を目指す。	生徒会課 運動部顧問	昨年度ベスト８以上は県高校総体９部、新人大会４部であった。（４クラス以下の学校では県高校総体４位）	【成果指標】 男女合わせて１９ある運動部で、５割以上がベスト８以上の成績をあげる。	ベスト８以上の運動部が A　５０％以上（９部以上） B　４０％以上５０％未満（７～８部） C　３０％以上４０％未満（６部） D　３０％未満（５部）	C・Dの場合は、問題点を整理し次年度に生かす	県総体、県新人大会の成績結果による
	③　文化部において、部の重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開の機会をさらに増加させる。	生徒会課 文化部顧問	昨年度は学校祭以外での発表・展示・公開の機会を持った文化部は１３部中１０部と増加したが、地域に対してはさらに発表機会を増加させていく努力が必要である。	【努力指標】 校内外での文化部活動を活性化し、発表・展示・公開の機会を増加させる。	学校祭以外で発表、展示、公開練習等の機会を持った回数が A　３回以上 B　２回 C　１回 D　０回	C・D合わせて６０％以上の場合は、取組を再検討	各文化部対象に ７月・１２月に調査
	④　生徒会が中心となり、行事への参画意識を高め、生徒からの意見を十分取り入れた行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事において、生徒が積極的に参加するためにはマンネリ化せず、新しい試みや工夫・検討が一層必要である。昨年度は９２％の生徒がほぼ満足した。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満足のいく行事になっている。	生徒会行事に満足していますか A　たいへん満足した B　おおむね満足した C　あまり満足できなかった D　まったく満足できなかった	C・D合わせて２０％以上の場合は、取組を再検討	生徒対象に ７月・１２月にアンケート調査
	⑤　精神的な悩みを持つ生徒に対して、学年、課が連携し組織的に支援する。	保健課 学年 教育相談課	不登校及び、教室での学習が困難となった相談室・保健室利用者が数名いる。	【努力指標】 支援を必要とする生徒に対して職員が情報交換を密にし、組織として対応する。	精神的な悩みを持つ生徒に対する職員の支援が A　よく行われている B　おおむね行われている C　あまり行われていない D　まったく行われていない	C・D合わせて４０％以上の場合は、支援体制を再検討	教員対象に ７月・１２月にアンケート調査
4　企業が求める人材の育成に努めると共に、早期からの求人開拓で求人数の増加を図り、進路講演会や綿密な個人面談・面接指導等の徹底により、希望の進路実現をめざす。	①　進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行うことにより、適切な進路選択を促進させる。	進路指導課 工業科 学年	２，３年生は進路意識が高いが、１年生はまだ主体的に進路を考えることができないため、進路情報を的確に知らせ、意識を高める必要がある。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識が高揚した。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により A　十分に進路意識が高まった B　少し進路意識が高まった C　あまり進路意識につながらなかった D　ほとんどつながらなかった	C・D合わせて３０％以上の場合は、取組を再検討	生徒対象に７月、１２月にアンケート調査
	②　進路希望の達成のために指導の充実を図る。 ・基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 ・外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	進路指導課 工業科 学年	昨年は不景気の中、求人数が減少した。今年も同じような求人状況であると推測される。進学も含め基礎学力やコミュニケーション能力を高める必要がある。	【満足度指標】 適切な学力・面接等の指導により実力をつける。	学力テストや面接指導等により A　実力がついた B　まあまあ実力がついた C　あまり実力がつかなかった D　まったく実力がつかなかった	C・D合わせて２０％以上の場合は、指導方法を再検討	３年生を対象に １２月にアンケート調査
				【成果指標】 就職内定率を高める。	就職試験の第１回目試験での内定率が A　８５％以上 B　７５％以上８５％未満 C　６５％以上７５％未満 D　６５％未満	C・Dの場合は、指導方法等を再検討	３年生を対象に秋に調査

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
5　様々な機会を捉え環境問題への理解を深めるとともに、全職員・生徒で省エネ活動に取り組み、環境保全への意識を高める。	①　環境保全についてはこれまでの取組を萎えさせることなく職員・生徒が理解を一層深め、学校全体で取り組みを継続させていく。	全職員 学年 総務課	省エネ・省資源活動は年々着実に行われているが、その取組に個人差があり、全校一致した取組となっていない。一人でも多くの人が活動に参加できるようにしたい。	【満足度指標】 省エネ・省資源活動により、電気エネルギーや水資源、暖房費が節減されている情報を得ることで、より一層環境保全に心がける。	環境保全に対し心がけているか A　心がけている B　やや心がけている C　あまり心がけていない D　心がけていない	C・D合わせて３０％以上の場合は、取組を再検討	生徒対象に ７月、１２月にアンケート調査
6　地域企業、近隣の小・中学校、地域住民との連携を深め、地域への奉仕活動やインターンシップ等を通じて、社会の一員としての意識を高める。	①　地域社会や企業と連携し、インターンシップ等のキャリア教育を推進する。	工業科 進路指導課 ２学年	地域企業について理解を深めたり、インターンシップにより、仕事をする意義について理解できた生徒は昨年度８８％であり、効果は上がっている。	【満足度指標】 インターンシップを通して職業感の育成や企業理解ができた。	仕事をすることの意義について A　十分理解できた B　まあまあ理解できた C　あまり理解できなかった D　まったく理解できなかった	C・D合わせて２０％以上の場合は、取組を再検討	２年生対象に インターンシップ終了時（１０月）にアンケート調査
	②　地域に貢献する大切さや必要性を認識するために、ボランティア活動を推奨する。	生徒会 学年	海岸清掃や地域イベント等に参加しているが、ボランティア活動の大切さが十分理解できているとはいえない。	【満足度指標】 ボランティア活動の大切さを理解し、クラス、部活動、生徒個々でボランティアに参加している。	ボランティア活動に参加した回数が A　３回以上 B　２回 C　１回 D　０回	C・D合わせて５０％以上の場合は、取組を再検討	生徒対象に７月・１２月にアンケート調査
	③　社会生活を営む上で、マナーの必要性を説き、認識させる指導により、交通ルールを遵守する生徒を育てる。	生徒指導課 学年	ほとんどの生徒が通学時に自転車を使用しており、乗車マナーについて集会や朝礼時に注意をしているが、徹底されず苦情の連絡が入ることもある。	【満足度指標】 交通ルールを遵守し、安全に通学している。	自分自身の自転車の乗車マナーについて A　ルールを守り安全に運転している B　ルールをある程度守り運転している C　ルールをあまり守らず運転している D　ルールを守らず運転している	C・D合わせて３０％以上の場合は、全校的な意識の高揚と指導法の再検討	生徒対象に７月・１２月にアンケート調査
	④　ホームページの更新を定期的に行い学校の様子や部活動の成績を発信し、情報公開に努める。	情報管理課 総務課 工業科 全職員	ホームページの更新回数は昨年度増加したものの、まだ情報が古かったり、分かりにくい箇所もある。	【努力指標】 分かりやすい内容でタイムリーな情報提供を行う。	各担当・各部でホームページを更新した回数が A　４回以上 B　３回 C　２回 D　１回以下	Dが５０％以上の場合は、取組を再検討	各担当・各部対象に ７月・１２月に調査
	⑤　本校教育活動について、学校新聞や学校公開の案内などにより地域からの理解促進に努める。	総務課 教務課 生徒会課	学校公開日や学校祭等の際には町会への案内は行っているが、本校の教育活動についての広報はまだ十分ではない。　（昨年度の地域への情報提供は４回）	【努力指標】 本校の教育活動が地域、町内で理解されるように広報する。	広報等での地域への情報提供を A　５回以上実施した B　４回実施した C　３回実施した D　２回以下	C・Dの場合は、取組を再検討	７月、１２月に調査